

## ESD国内実施計画並びに文部科学省の施策について

文部科学省大臣官房国際課 澄川 雄 氏

わが国における  
「国連持続可能な開発のための教育の10年」  
実施計画について

平成18年10月13日  
文部科学省大臣官房国際課  
澄川 雄

### Agenda

- 1. 「持続可能な開発(SD)」とは
- 2. 「持続可能な開発のための教育(ESD)」とは
- 3. わが国における実施計画策定の経緯
- 4. わが国における実施計画について
- 5. 文科省における取組み

### 「持続可能な開発」とは Sustainable Development: SD

- 1987年、「環境と開発に関する世界委員会(通称:ブルントラント委員会)」により、

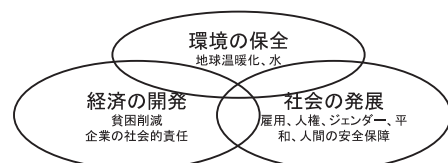
「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、  
現在の世代のニーズを満たすような開発」

として提案された概念。

世代間の公平、地域間の公平、男女間の公平、  
社会的寛容、貧困削減、環境の保全と回復、  
天然資源の保全、公正で平和な社会など、  
その対象は多岐に渡る。

### 「持続可能な開発」とは Sustainable Development: SD

- 環境の保全、経済の開発、社会の発展を  
調和の下に進めていくことが持続可能な開発。



### 「持続可能な開発のための教育」とは Education for Sustainable Development: ESD

- 1992年、国連環境開発会議(地球サミット)において、持続可能な開発についての行動計画「アジェンダ21」が採択。教育の重要性が盛り込まれる。
- 2002年、持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグ・サミット)において、小泉首相(当時)は教育の重要性を訴え、国連において「ESDの10年」を宣言することを提案。

### 「持続可能な開発のための教育」とは Education for Sustainable Development: ESD

- 2002年、第57回国連総会  
我が国より、2005年からの10年を「国連持続可能な開発のための教育の10年」とする決議案を提出、満場一致で採択。
- (決議の主な内容)
- ・2005年からの10年を「ESDの10年」とする
  - ・ユネスコをリード・エージェンシーに指名、国際実施計画の策定を要請
  - ・各国政府に対し、それぞれの実施計画の検討を呼びかける

## わが国における実施計画策定の経緯

- ESDのリードエージェンシー(主導機関)に指名されたユネスコは2005年、第172回執行委員会において、国際実施計画を策定。
- 国際実施計画では・・・
  - ・各国が各国における実施計画を策定して実施すること
  - ・ESDの課題は社会の広範囲な分野にわたること
  - ・ESDの取組みは、国(地域)ごとに異なること
  - ・地域に根ざした取組みが重要であること

➡ わが国における実施計画策定の必要性

## わが国における実施計画策定の経緯

「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省連絡会議  
(平成17年12月27日関係省庁申合せ・平成18年10月3日改正)

目的:「国連持続可能な開発のための教育の10年」に係る施策の実施について、関係行政機関相互間の緊密な連携を図り、総合かつ効果的な推進を図る。

構成:議長:内閣官房副長官補  
副議長:内閣官房内閣審議官  
外務省国際協力局地球規模課題審議官  
文部科学省国際統括官  
環境省地球環境局長

構成員:内閣府大臣官房総括審議官  
総務省大臣官房官房長  
農林水産省農村振興局長  
経済産業省産業技術環境局長  
国土交通省総合政策局長

オブザーバー:法務省人権擁護局長、厚生労働省政策統括官(労働担当)

## わが国における実施計画策定の経緯

- 平成17年12月 関係省庁連絡会議を設置、わが国における実施計画を策定することを決定
- 平成18年1月 円卓会議(有識者会議)
  - 2月 意見募集(パブリックコメント)実施、3週間で延べ意見数111件
  - 3月 関係省庁連絡会議にて実施計画(案)について審議、決定
  - 6月 公表イベント(於:仙台)

## 実施計画 (目次)

1. 序  
関係省庁連絡会議の設置
2. 基本的考え方  
(1)経緯  
(2)持続可能な開発のための教育とは  
(3)わが国の実施計画
3. ESD実施の指針  
(1)地域づくりへと発展する取組  
(2)教育の場、実施主体  
(3)教育の内容  
(4)学び方・教え方  
(5)育みたい力  
(6)多様な主体の連携、協働  
(7)評価
4. ESDの推進方策  
(1)初期段階における重点的取組事項  
(2)国内における具体的な推進方策  
(3)各主体に期待される取組  
(4)国際協力の推進
5. 評価と見直し  
(1)評価  
(2)中間年までの目標と見直し  
(3)最終年における評価

## 1. 序

- ①関係省庁連絡会議を内閣に設置、わが国におけるESDの実施計画を定めたこと
- ②実施計画に掲げられた施策を実施して、あらゆる人々の意識や行動が変わることを期するものであること

## 2. 基本的な考え方

### (1)経緯

- ①1987年、「環境と開発に関する世界委員会(通称:ブルントラント委員会)」以降の経緯
- ②「持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)」において、わが国がESDの10年を提案し、その後国連総会において決議
- ③主導機関に指名されたユネスコにより国際実施計画が2005年9月に策定

## 2. 基本的な考え方

### (2)持続可能な開発のための教育とは

(イ)持続可能な開発、持続可能な開発のための教育  
環境や資源の制約を意識した開発であることや、世代間の公平、貧困削減、平和などが基本的な考え方であること。持続可能な開発とは、環境保全、経済開発、社会の発展を調和の下に進めていくことであること

#### (ロ)ESDの目標

学校のみならず、あらゆる教育や学びの場にESDが取り込まれ、人々が環境、経済、社会の面において持続可能な将来を実現できるような行動の変革をもたらすこと

#### (ハ)取り組むべき分野

- ①国より取り組むべき内容は異なり、途上国では貧困撲滅が最優先課題であること
- ②先進国では、環境保全が優先的な課題であること
- ③途上国、先進国を含む世界の社会経済は、相互に結びついているので、相互理解、国際協調が必要であること

## 2. 基本的な考え方

### (3)わが国の実施計画

#### (イ)わが国の実施計画の位置づけ、内容

- ①多様な実施主体に対してESDの指針を示す
- ②政府が自ら主体として実施する措置を示す
- ③各主体に期待する役割と自発的な実施を促すための施策を示す

#### (ロ)最終年までの目標

- ①一人ひとりが持続可能な社会づくりに参加できるようになること
- ②各主体が、それぞれの活動に持続可能な社会づくりのための行動を織り込むこと
- ③各地域において様々な主体が連携して、持続可能な地域づくりを行うこと
- ④これらを通じて、日本社会が持続可能な社会に近づき、また、世界の中の一員として、地域、国、国際レベルで行動すること

## 2. 基本的な考え方

### (3) わが国の実施計画

#### (ハ) わが国におけるESD

・ESDの概念は新しいものだが、学校における「総合的な学習の時間」などを通して「生きる力」を育むこと、地域活動における「市民参画のまちづくり」など、これまで行われてきた取組みはESDの観点から捉えなおすことができる

#### (ニ) わが国が優先して取り組むべき分野

- ① 社会経済活動を資源や環境の制約条件を織り込んだものへ転換すること
- ② 途上国における問題への理解の強化、途上国への協力の強化
- ③ 上記の①、②はそれぞれ縦割りではなく、重層的なものであることから、環境を入り口としつつ、環境、社会、経済の統合的な発展及び国際協力に取り組む

## 3. ESDの実施の指針

### (1) 地域づくりへと発展する取組

- ① 地域特性に応じた実施方法を開発し、発展させることが重要
- ② ESDの取組として捉え直すことで、持続可能な地域づくりの取組みへ発展させる

## 3. ESDの実施の指針

### (2) 教育の場、実施主体

・学校等の公的な機関にとどまらず、地域社会、企業等、あらゆる主体が実施主体となることが重要

## 3. ESDの実施の指針

### (3) 教育の内容

- ① ESDの対象となる課題については、学校教育、社会教育や地域活動で扱われてきた(環境教育、開発教育、人権教育etc..)
- ② 様々な課題の取組をベースにしつつ、個別の分野にとどまらず、社会、経済、環境の側面から総合的に捉え、ESDへと発展させることが重要

## 3. ESDの実施の指針

### (4) 学び方・教え方

- ① 「関心の喚起→理解の深化→参加する態度や問題解決能力の育成」を通じて「具体的な行動」を促すまでの一連の流れが重要
- ② 知識の伝達にとどまらず、体験、体感を重視する参加型アプローチが大切

## 3. ESDの実施の指針

### (5) 育みたい力

- ① 多面的かつ総合的なものの見方を重視し、体系的な思考力(システムズ シンキング)
- ② 批判力を重視し、代替案の思考力(クリティカルシンキング)
- ③ データや情報を分析能力、コミュニケーション能力
- ④ 人間の尊重、多様性の尊重等、持続可能な開発に関する価値観

- ⑤ 上記①～④によって、主体的に持続可能な社会づくりに参加する態度を育むことが重要

## 3. ESDの実施の指針

### (6) 多様な主体の連携、協働

- ① 各主体の自発的な取組を連携させることが重要
- ② コーディネート能力やプロデュース能力を持つ人材や組織が必要

## 3. ESDの実施の指針

### (7) 評価

・企画、実践、評価、改善という過程を重視

#### 4. ESDの推進方策

##### (1) 初期段階における重点的取組事項

- (イ) 普及啓発  
普及啓発を推進する
- (ロ) 地域における実践  
地域における取組の推進とその経験の共有を図る
- (ハ) 高等教育機関における取組
  - ・各分野の専門家を育てる過程にESDを織り込み、ESDを理解する人材を育む
  - ・持続可能な社会を構築するための調査研究を実施する

#### 4. ESDの推進方策

##### (2) 国内における具体的な推進方策

- (イ) ビジョン構築、意見交換
  - ① 持続可能な開発に関連する様々な分野の基本方針や計画に、持続可能な開発の観点を盛り込む
  - ② 学識経験者、教育関係者、NPO、企業等の関係者との意見交換の場として円卓会議を随時開催する
- (ロ) 協議による政策決定、関係者の主体性の促進  
あらゆる主体から幅広く意見を聴くことは重要。早い段階からの市民参加プロセスを始動する。

#### 4. ESDの推進方策

##### (2) 国内における具体的な推進方策

- (ハ) パートナーシップとネットワークの構築・運営
  - ① 各府省間の連携や多様な主体とのパートナーシップやネットワークの構築に努める
  - ② また、地域におけるパートナーシップの促進のため、コーディネーターやプロデューサーの人材育成を行う
- (ニ) 能力開発、人材育成
  - ・政府で行われている様々な研修にESDを織り込む

#### 4. ESDの推進方策

##### (2) 国内における具体的な推進方策

- (ホ) 調査研究、プログラム開発  
ESDの調査研究を奨励。これらを通じて、既存の教育プログラムを発展させる
- (ヘ) 情報通信技術の活用  
IT技術を活用した情報発信、ESDに係る情報の発信

#### 4. ESDの推進方策

##### (3) 各主体に期待される取組

- (イ) 個人、家庭  
日常生活における、ESDに関する取組  
省エネ型ライフスタイルや食育の実践、家庭における学び、地域づくりへの参画など
- (ロ) 学校
  - ① 総合的な学習の時間など、学校における教育活動全体を通じて取り組むこと。
  - ② 自然体験、農山漁村における体験等の促進に努めること
  - ③ 学校の施設を環境に配慮したものとする
  - ④ 大学において、教育や研究を行うこと

#### 4. ESDの推進方策

##### (3) 各主体に期待される取組

- (ハ) 地域コミュニティ
  - ・まちづくり活動、お祭りなどの様々な活動を有効に活用し、ESDの視点を取り込むこと
- (ニ) NPO
  - ① NPO活動にESDを取り入れること
  - ② プロデューサーやコーディネーターの役割を担うこと

#### 4. ESDの推進方策

##### (3) 各主体に期待される取組

- (ホ) 事業者・業界団体
  - ・持続可能な開発に合致した事業運営を行うこと
- (ヘ) 農林漁業者、関係団体
  - ・体験活動の場や機会を提供すること
- (ト) マスメディア
  - ① ESDに関する情報提供を行うこと
  - ② イベントの開催、支援を行うこと

#### 4. ESDの推進方策

##### (3) 各主体に期待される取組

- (チ) 教員養成・研修機関
  - ① ESDに係る教員の指導力の向上等に関する研修を行うこと
  - ② 大学の教員養成課程においてESDについて積極的に取り上げること
- (リ) 公民館、図書館、青少年教育施設等の社会教育施設、ボランティアセンター、消費者センター、女性センター等の公的な拠点施設
  - ① ESDの場や機会を提供すること
  - ② プロデューサーやコーディネーターの役割を担うこと

#### 4. ESDの推進方策

##### (3)各主体に期待される取組

###### (ヌ)地方公共団体

- ①地域の計画に持続可能な開発の考え方を織り込むこと
- ②関連部局が連携して行うこと
- ③プロデューサーやコーディネーターの役割を担うこと

#### 4. ESDの推進方策

##### (4)国際協力の推進

###### (イ)国連機関等との連携・協力

- ・ユネスコ、国連大学等への拠出金を通じた事業の支援

###### (ロ)アジア地域を中心とした地域レベルの協力の推進

- ・ASEAN、ACD等を活用した協力の推進

###### (ハ)開発途上国における人づくり等への支援

- ①ESD関連プロジェクトの実施、専門家等の派遣、研修等を通じたESDを担う人材育成に貢献する
- ②ODA事業について持続可能な開発の考え方に沿って実施する

#### 4. ESDの推進方策

##### (4)国際協力の推進

###### (ニ)各主体との連携、民間団体の取組の支援

- ・NPO、事業者等の民間団体と連携して国際協力を進める
- ・民間団体、地方公共団体の取組を支援する

###### (ホ)国民の国際理解の増進

- ・国際理解教育を推進

###### (ヘ)国際社会への情報発信

- ・国際会議などを通じ、わが国の国際協力の取組を発信

#### 5. 評価と見直し

##### (1)評価

- ・国内の研究状況、ユネスコの評価に関する検討内容を踏まえ、評価方法について検討

##### (2)中間年までの目標と見直し

- ・毎年政府の取組状況について点検
- ・中間年である2010年には評価結果を踏まえ見直し

##### (3)最終年における評価

- 2014年末に10年全体の評価と以後の検討を行う

#### 別表

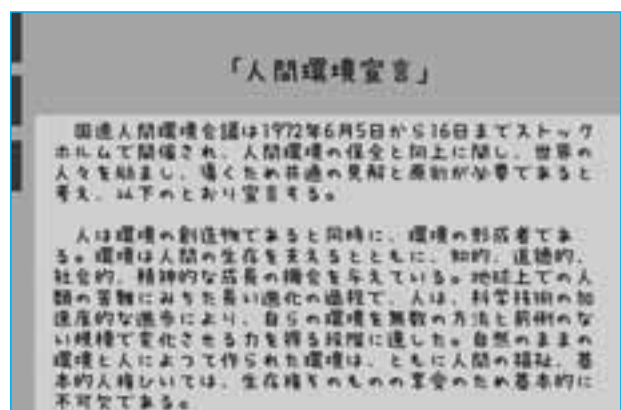
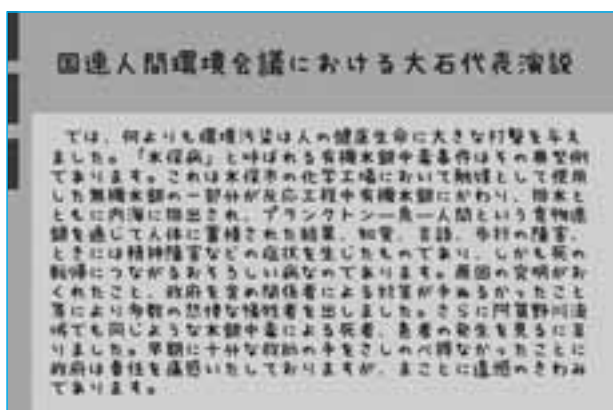
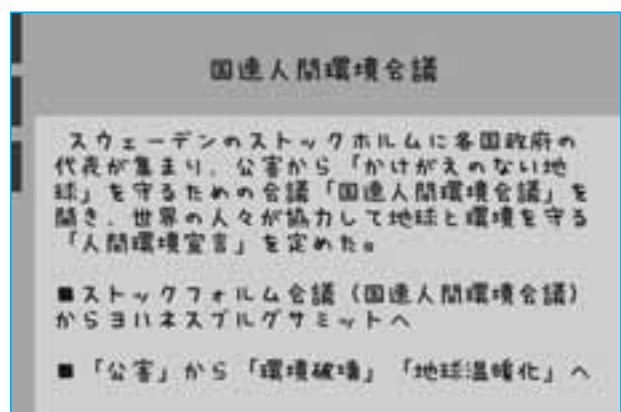
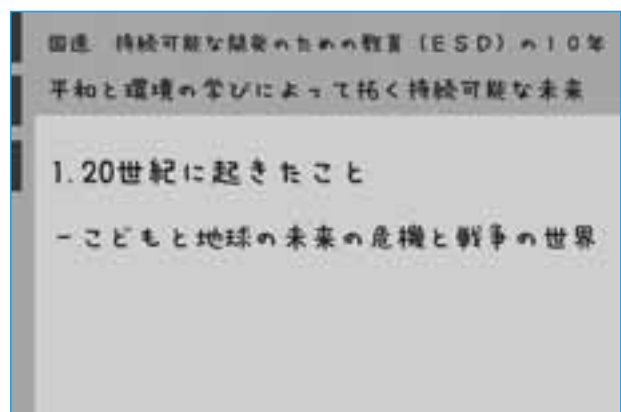
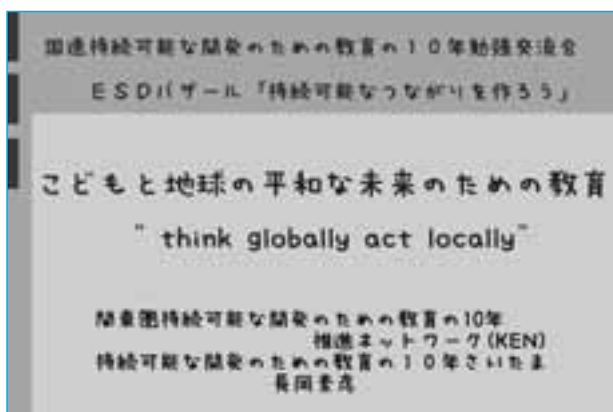
- ・政府の行っているESD推進のための施策一覧

## ESDバザール「持続可能なつながりを作ろう」

関東圏持続可能な開発のための教育の10年推進ネットワーク 事務局長

持続可能な開発のための教育の10年さいたま(ESDさいたま)

長岡素彦 氏





## 環境問題の国を超えた協力による解決

1987年豪京で「開発と環境に関する世界委員会」が開催され、「持続可能な開発」を目標に「われらの共有の未来」を宣言。

1992年のブラジルのリオ・デ・ジャネイロで「環境と開発に関する国連会議/国連環境開発会議(地球サミット)」において、持続可能な開発の理念が公に合意されて、具体的な行動計画として「アジェンダ21」が採択された。以降、持続可能な開発は国連の会議、国際会議において中心のテーマとなり、環境、人口、居住、貧困、ジェンダー、人権などの課題が地球規模の問題であり、相互に関連しており、その解決には国を超えた協力と参加型市民社会が必要不可欠であると考えられた。

そして、持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグ・サミット)へ。

## 持続可能な開発に関する世界首脳会議 (ヨハネスブルグ・サミット)

2002年8月26日から9月4日まで南アフリカのヨハネスブルグにおいて開催された国連主催の首脳会議であり、人類が抱える困難な課題に世界の関心を向け、解決を目指す世界的な行動を促すことを目的とした。

この会議は、「アジェンダ21」が採択された1992年のリオ・デ・ジャネイロでの国連環境開発会議から10年が経過したのを機に、同計画の実施促進やその後生じた課題等についてハイレベルで議論することを目的に企画されたもので、「リオ+10」とも言われ、世界104カ国の首脳、190を超える国の代表、また国際機関の関係者のほかNGOやプレスなど合計2万人以上が参加した。

## 「ヨハネスブルグ宣言」

ヨハネスブルグ・サミットでは「アジェンダ21」をより具体的な行動に結びつけるための包括的文書である「行動計画」を採択し、持続可能な開発に向けた政治的意志を示す「ヨハネスブルグ宣言」が採択された。さらに自主的なパートナーシップ・イニシアティブに基づき200以上の具体的なプロジェクトが採択された。

### 「ヨハネスブルグ宣言」

この首脳会議の結末に、世界の子どもたちは我々に対し、書状であるがはっきりとした口頭で世界の未来は我々のものであると語りかけ、我々すべてに対して、我々の行動を通じて、彼らが貧困、環境破壊、持続可能な開発、持続可能な開発が引き起こす悪影響も手遅れのない世界を創出することを確保するよう求めた。

したがって、我々は、持続可能な開発の、相互に依存しつつ相互に補完的な自然、即ち、経済開発、社会開発及び環境保護を、地方、国、地球規模の世界的レベルで更に推進し強化するとともに共同の責任を負うものである。

## ■アフリカの女たちは木を植え始めた■

アフリカのマーサイさんは1977年に「グリーンベルト運動」というNPO(非政府組織)を立ち上げた。環境保護と地域住民の生活の向上が目的だ。国連は1989年に、アフリカでは平均で年が100本植えられる間にたった9本しか植えられていないと報告し、いかに速いペースで木が減っているかを世界に知らせた。このために森林は急激に減少し、土壌侵食、水質汚染、飢餓、貧困、動物の生息地など種々の被害をもたらした。マーサイさんも、森林破壊は最も深刻な環境問題の一つであり、現在でも国土を占める森林の面積の割合は、国連が最低限度と定めた10%を大幅に下回る2%だ。このような深刻な状況の中で、マーサイさんのグリーンベルト運動は、最初は7本の木を植えることから始まった。しかし次第に活動範囲も広がっていき、現在までにマリヤン地方に30万本以上の木を植えてきた。その方法も画期的で、貧困な女性を農村部などの植樹に使っていき、植樹作業を通して収入を得ることで生活資金を支えるだけでなく、教育や家族計画の知識も提供するというのだ。このような取り組みはタンザニアやザンビアなど他20ヶ国ほどのアフリカ諸国でも行われている。

## 人々は木を植え始めた。



この10年間で300万本の植樹を実施しました。中国内モンゴルのグダラ河は毎年1000人を超えるボランティアが訪れ植樹に汗を流しています。グダラ河は森林と変わり、小魚やサメ、鴨やトンボが棲み、花も咲き、砂漠は緑の川が流れて生息しています。今後10年間は毎年100万本を植樹し、グダラ河にグリーンベルトをつくらせます。

日本沙漠緑化実行協会は沙漠緑化と沙漠化防止を目的として1991年設立され、中国内モンゴル、沙漠緑化をすすめるための団体  
<http://www.sahakuryokuka.org/>

## 日本の「死の谷」に木を植える 市民・NPOの活動

近代最初の環境破壊である明治の足尾銅毒事件は足尾銅山の排水で田畑は干毛の地となり、排水が又による森林被害で山の大半がバグ山になった。国や県などによる復旧事業が続けられてきました。

1990年代から市民・NPOが足尾の山に木を植えていくという活動が広がっている。



木を植えたことで、我々は平和と希望の種を植えてきた。

多くの戦争は、資源をめぐる競争から始まる。我々が持続可能な方法で資源を管理すれば戦争は減る。

環境の持つ深い価値を意味を理解する者は、活動する責任を負っている。決してあきらめてはいけないのだ。

ノーベル賞受賞の知らせを受けた後、植やがに生かせるケニア山を歩いた。...「我々の未来が危うい山だ、我々の未来を『助けてください』と書いてあるように見え始めた。

植はケニアの神である。土壌侵食や干ばつの防止、飢饉や貧困の解決に重要だ。



「日本語の『もったいない』という言葉を  
おぼらしい。」

2004年ノーベル平和賞受賞  
ワンガリ・マータイ  
Wangari Maathai

## 戦争の世紀だった20世紀 戦争の絶えない時代



### 原爆の影





### アウシュビッツの影



### 三種国民「ホテルと鎮魂」 フィリピン レイテ

「ホテルと鎮魂」展 戦争をモチーフにしたオブジェ

「ホテルが戦死した僧侶の血の跡を辿って眠っていた光景」

### 「ホテルと鎮魂」展 戦場のホテルから平和へ

2005年8月10日～21日 ショーラー市東松山

東松山市は日本で初めて「花と歩けの国際平和都市宣言」を行いスリーデーマーとして有名なまちだが、「環境都市宣言」も行っている環境自治体でもある。

同市は環境を暮らしと結びつけるシンボルとして「ホテル」を取り上げ、1999年よりホテルの里づくりによる市民の手による環境向上活動に取り組んでいる。

このホテルの里づくりの勉強会で講師を務めた大嶋信義氏より三種氏のことを聞き、同市環境保全課がホテルの里事業の一環として三種氏に作品を借りることを申し入れたところ、氏はその趣旨に賛同し「戦場の鎮魂と平和の祈念のため」に大作を3点描き同市に寄贈し、あわせて「ホテルと鎮魂」を実施した。

### フィリピンと日本を結ぶ ビデオメッセージ・プロジェクト

BRIDGE FOR PEACEが若者が戦争体験をビデオ映像で伝えるプロジェクトとして、元日本兵とフィリピン人の戦争体験をビデオ・インタビューして、そのメッセージビデオを相互に伝えるもの。



### 人の中に残る戦争

ボスニア ヘルツェゴビナ戦争  
第二次世界大戦後のドイツで撮影された戦争




何日まで読んであった人々が同じ街の中で暮らそう。

これがボスニア・ヘルツェゴビナで起きたこと。

隣人同士が殺しあった。



憎しみは辛く消えない。

それでも、わたしは、あなたと生きていきたい。

### 環境に取り組む若者たち

国内でも環境活動に関わる若者が増えた  
ーアースデイの取り組みー

アースデイ（地球の日・4月22日）は、地球のために行動する日です。地球に感謝し、美しい地球を守る意識を共有する日です。1970年から続くアースデイには、大人から子供まで、国境・民族・信条・政党・党派を超えて多くの市民が参加し、世界184の国と地域、約5000ヶ所で行われている。世界最大の環境フェスティバルである。

### 国を超えて出かける若者たち

私たちが変わる。私たちが変える  
ー地球市民になるための「問題解決型」環境体験ー

東京国際大学下町ゼミナールの学生はフィリピンにおいて、韓国と現地の学生と地球市民になるための「問題解決型」環境体験プログラムに参加し、日本での産業廃棄物問題への取り組みを行っている。

スモーカーマウンテン、パング川、タリム島といった環境とそれに隣接する貧困、開発などの問題が深刻化している現場、ならびに問題解決に関わる国際機関、政府関係機関、問題解決のために何が出来るかを考え、提言を行った。

### いろいろなことが始まった

公害が激化して人々が訴えた結果「環境」が地球規模の問題になったが、それでも「環境破壊」「地球温暖化」が進行した  
戦争の絶えない時代がつづく

↓

- 人々は環境を守り、木を植え始めた
- 若者が活動を始めた
- 国際協力ではない「地球・国を超えた活動」

↓

「持続可能な社会が平和と環境の未来を築く」

### 国連 持続可能な開発のための教育（ESD）の10年

平和と環境の学びによって拓く持続可能な未来

## 2. 国連持続可能な開発のための教育（ESD）の10年


プログラムとしての教育・ESDと

行動としての教育・ESD



## 世界は

**72年「国連人間環境会議」  
水俣アピール**



**生き物・こども  
たちが環境破壊  
の犠牲になった**

## こどもたちが

セヴァンは12歳になったある日、リオで環境サミットが開かれることを知りました。「地球のことを大人達に任せておけない。」セヴァンと4人の子どもたちはカンパを募って、リオまでの旅費を作ります。

リオに着いた子どもたちは、リオに集まった大人達、NGOに必死で働きかけ、ついに6分間だけ、サミットの演壇でスピーチするチャンスをつかみます。この日は、1992年、世界の指導者を前にセヴァンが語った6分間のスピーチを記したものです。「私が環境活動をしているのは、私自身の未来のため。」そう、セヴァンは言い切ります。「どうやって通すのかわからないものを、こわしつづけるのはもうやめてください。」

## こどもたちが

**92年「国連地球環境サミット」  
リオの伝説のスピーチ**

こどもたちから始まった。  
12才の少女セバン・スズキは  
「私はこどもだけ知っています  
戦争に使うお金を環境と貧困を  
なくすために使えばこの星は」

## そして、

**02年「ヨハネスブルグサミット」  
日本のNGOの提案**

**持続可能な社会のためには「教育」！！  
でも学力とかではない。**

## 持続可能な開発のための教育の経緯

持続可能な開発の概念は1987年にブルントラント委員会の報告書「我々の共通の未来」に発する。

その後、1992年の国連環境開発会議（地球サミット）において、持続可能な開発の理念が正式に合意されて、具体的な行動計画として「アジェンダ21」が採択された。

以降、持続可能な開発は国連の会議、国際会議において中心的なテーマとなり、環境、人口、居住、貧困、ジェンダー、人権などの課題が地球規模の問題であり、相互に関連しており、その解決には国を超えた協力と参加型市民社会が必要不可欠であると考えられた。

そして、ヨハネスブルグサミットで持続可能な開発を実施するにあたって「持続可能な地球社会づくり」のための教育を全世界で行うことを提起して、2005年度から10年間の国連プログラムとして実施されるものである。

## 国連ミレニアム開発目標 (MDGs) Millennium Development Goals

2000年9月ニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットで21世紀の国際社会の目標として「平和と安全、開発と貧困、環境、人権とグッド・ガバナンス、アフリカ」などを課題として掲げ国連ミレニアム宣言を採択した。

国連ミレニアム宣言と1990年代に開催された主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標を統合し一つの共通の持続可能なミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals : MDGs) とした。

- 「アジェンダ21」
- 「都市環境協定」"Urban Environmental Accords"
- 「持続可能な開発のための教育 ESD」  
Education for Sustainable Development

↓  
**「教育」の重要性**

## 持続可能な開発のための教育・ESD Education for Sustainable Development

「持続可能な開発のための教育の10年」は、ヨハネスブルグサミットで採択され、2002年の国連総会で採択された国連「持続可能な開発のための教育の10年」に基づき2005年より各国で展開されている。

持続可能な開発のための教育とは、「持続可能な地球社会づくり」のための教育であり、従来の環境教育、人口、貧困、健康といった開発問題を扱う開発教育、平和、人権、民主主義、共生といった平和教育、人権教育や諸教育を「持続可能な地球社会づくり」のためにトータルに導入した教育で成人教育のみならず、青少年教育、学校教育も含めたすべての教育で展開されるものである。

## 持続可能な開発のための教育・ESD



## 「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 と関係者庁連絡会議・国内行動計画

日本でも「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)の設立総会が2003年6月21日、東京都豊島区で開催されている。同推進会議は、環境・開発・人権・平和・ジェンダーなどにかかわる日本のNGO・NPO及び個人のネットワーク組織として設立され、市民とNGO・NPOが政府、政府関係組織や民間・私企業などのパートナーシップによって、この「持続可能な開発のための教育の10年」を推進している。

本年、日本でも政府による国内行動計画が策定され、この計画で持続可能な開発のための教育(ESD)が実施されることになり、「国連・持続可能な開発のための教育の10年」を推進するために内閣府を中心に「関係者庁連絡会議」が設置されています。

## わが国における 「国連持続可能な開発のための教育の10年」 実施計画

### わが国の実施計画の位置づけ・内容

具体的には、政府は、この実施計画の「3. ESD実施の指針」に示す内容に基づき施策を推進します。また、多様な主体による取組についても、この指針に基づいて行われるよう周知してまいります。具体的な施策については、4. ESDの推進方策において、政府が自ら主体として実施する措置を示すとともに、各主体が連携して適切な役割分担の下に進めていけるよう各主体に期待する役割を明らかにし、その上で、各主体の取組を促進・支援するための施策を示します。さらに、国際協力の進め方について示し、世界においてリーダーシップを発揮するための具体的な取組を示します。

## プログラムとしての教育・ESD

### プログラムとしての教育・ESD

#### ■岡山ESDプロジェクト

岡山県が国連大学からRCE(Regional Centre of Expertise on Education for Sustainable Development)に認定されている。



#### ■ESDとよなか

「ESDとよなか」とは、豊中においてESDを進めるためのゆるやかな組織です。

豊中市・教育委員会・財団法人 とよなか国際交流協会・とよなか人権文化まちづくり協会・NPO法人 とよなか市民環境会議アソシエ21・財団法人 とよなか青年共同会推進財団



## プログラムとしての教育・ESDと 行動としての教育・ESD

### ■プログラムとしての教育・ESD

国連サミット、ESDプログラム  
持続可能な社会、地球規模で考えるとが  
国連のプログラム、政府の計画  
教育プログラム

### ■行動としての教育・ESD

それをESDとあえて呼ばない活動・不可視のESD  
活動・行動。そして、体験学習

どちらも同じように重要

## 活動としてのESDを目指して さいたまでの取り組み

さいたまでも2003年に「持続可能な開発のための教育の10年さいたま(ESDさいたま)」が結成され、持続可能な開発のための教育の10年は本年より本格的に展開されている。  
2004年12月に持続可能な開発のための教育の10年さいたま地域ミーティングを行った。

↓

が、これは「プログラムとしてのESD」である。

そして、地域・まちにはいろいろな

「活動としてのESD」

が存在している。

## 地域・自分の住むまちでの取り組み(環境・他)

### 自分の住むまちで取り組みとして

#### ■「かわごえ環境ネット」かわごえ環境フォーラム

かわごえ環境ネットとは川崎市環境基本計画にもとづき市民・事業者・行政の協働による環境パートナーシップ団体で、環境に関する諸活動・提案を行うとともに、市の環境報告書の作成やかわごえ環境フォーラムを開催している。

#### ■「川越グリーンマップ」

#### ■「アースデイ・イン・川越」-自然なESD



## 地域・まちでの取り組み

協働・参加のまちづくり市民研究会

NPOユニバーサルデザインステップ

特定非営利活動法人 埼玉サービス協議会

さいたま地域通算フォーラム

埼玉地域ファンド研究会

埼玉県ウェブアクセシビリティ推進連絡会

新へ国産光創造型

## 活動としてのESDを目指して ESDさいたまの取り組み

さいたまでも2003年に持続可能な開発のための教育の10年さいたまが結成され、持続可能な開発のための教育の10年は本年より本格的に展開されている。  
2004年12月にさいたま地域ミーティングを行った。

持続可能な開発のための教育の10年さいたま地域ミーティング  
「持続可能な社会を協働で築こう！」

日時 2004年12月11日(土) 10時~16時30分

場所 埼玉環境館松山市民文化センター

主催 「第4回環境まちづくりフォーラム-埼玉」実行委員会

共催 持続可能な開発のための教育の10年推進プロジェクト  
共催 「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

「持続可能な社会を協働で築こう！」

「地域で持続可能な社会を築こう」  
川口市環境を語り、一日二酸化炭素削減活動として一日で、5月7、8、9日の二酸化炭素削減活動「埼玉エコライザー」の取り組みの報告と、東和山・環境市民の会と東和山市より、協働で行う環境活動と、「環境から福祉」市庁から平和へ一足元から始めるSDの取り組みがあった。

「若者と持続可能な社会を築こう」  
東京国際大学下町セミナーより、フイリピンにおいて、韓国と地域の若者と地産市民になるための「持続可能な環境保護プログラム」に参加し、日本での産業廃棄物問題への取り組みの報告と、前年度学生ボランティアネットワークによる自主的な福祉ボランティアの活動と学生ボランティアネットワークについて報告。そして討論プロジェクトと自由の森で農業学校イラク討論プロジェクト実行委員会の高橋生より、バグダッドとサレド電話で語り合い相互理解を深めた事例の報告があった。

「持続可能な社会を協働で築こう！」



高橋生(中央)と討論 参加者で「持続可能なまち」 持続可能なまちづくりプロジェクト報告の発表

ワークショップ「持続可能なまち」  
開発教育協会ユースのファシリテートにより参加者全員がらつのグループに分かれ、ある地域の地図をもとに「持続可能なまち」を作りあげるワークショップも行われた。

2005年のさいたままでのESDの主な取り組み

- 地域再生ミーティング 9月18日  
「人・森・地域いきいきフォーラム」- 飯能市小岩井・自由の森で考える
- まちづくりとの連携  
埼玉住まい・まちづくり交流展2005 10月1日  
埼玉環境活動総合センター
- 環境との連携  
第五回環境まちづくりフォーラム埼玉 06年2月26日  
埼玉県文化センター クラシアさくら
- ネットワーク  
さいたまグリーン・エコロジー文化協議会・埼玉住まい・まちづくり交流展・環境まちづくりフォーラム埼玉実行委など
- 地域を結ぶ連携- 東京川・埼玉

人・森・地域いきいきフォーラム  
飯能市小岩井・自由の森で考える

8日、埼玉県飯能市の自由の森公園で「人・森・地域いきいきフォーラム」が開かれた。  
このフォーラムはさいたまグリーン・エコロジー文化協議会と自由の森公園の共催により(後援 飯能市教育委員会)で開かれ、「飯能市小岩井・自由の森で考える」というサブタイトルで飯能市で特色ある教育を行っている自由の森公園と地元で活動している人とさいたまグリーン・エコロジー文化協議会が持続可能な地域づくりを考えるものである。

日時 2005年9月18日(日) 10時～16時30分  
場所 自由の森公園  
主催 埼玉グリーン文化協議会  
(旧さいたまグリーン・エコロジー文化協議会)  
後援 飯能市教育委員会

人・森・地域いきいきフォーラム  
飯能市小岩井・自由の森で考える

セッション1「自然と子どもたち-環境教育の現場から」  
コーディネーターの自由の森公園高橋生氏より自由の森公園の紹介があり、同時の生徒による地産市民講座ドイツの環境教育の報告、自由の森公園の林業講座の報告、自由の森公園の夏の芸術プロジェクトの報告などがあった。

セッション2「木と森の活用」  
コーディネーターの埼玉グリーン文化協議会山本正世氏により持続可能な地域の環境保全・向上のためのコミュニティデザイン的位置づけについて語られ、林業家で「木需要」の井上洋治氏より森林の現状と活用について、「木(き)の会」の吉野敦氏より木の活用と住まいづくりについて地域の現状を踏まえた講演があった。

人・森・地域いきいきフォーラム  
飯能市小岩井・自由の森で考える



「セッション1」 「自然と子どもたち」 「セッション2」 「木と森の活用」 「セッション3」 「地域再生を考える」


セッション3「地域再生を考える」  
埼玉グリーン文化協議会委員代表のファシリテートにより参加者全員がらつのグループに分かれて「地域再生を考える」ワークショップも行われた。

分野を超えた取り組み【ネットワーク】  
「埼玉住まい・まちづくり交流展」

「人・森・地域いきいきフォーラム」  
- 飯能市小岩井・自由の森で考える -  
主催さいたまグリーン・エコロジー文化協議会・自由の森公園

【テーマの連携】 ↓ 【人の連携】

埼玉住まい・まちづくり交流展  
「森と都市の共生 地域連携を模索する」  
主催 NPO木の家さいたまの会  
協力 西川市森林組合 後援 埼玉県




【主催・開催】  
建築学会関東支部埼玉支部、新田法人いきいき埼玉

分野を超えた取り組み【ネットワーク】

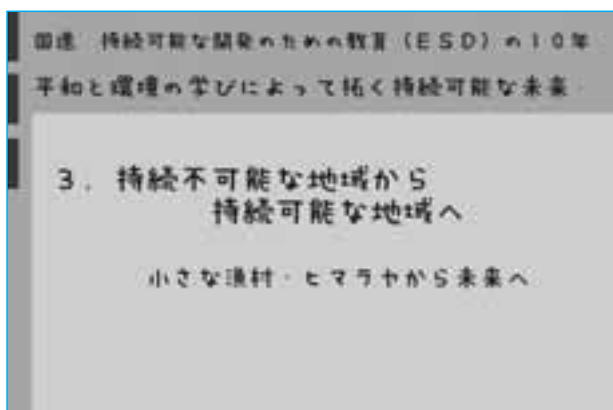
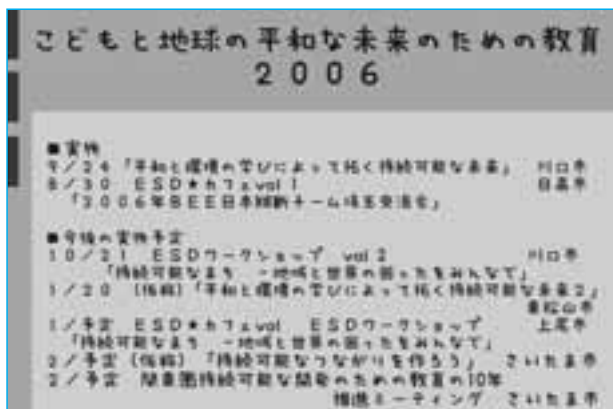
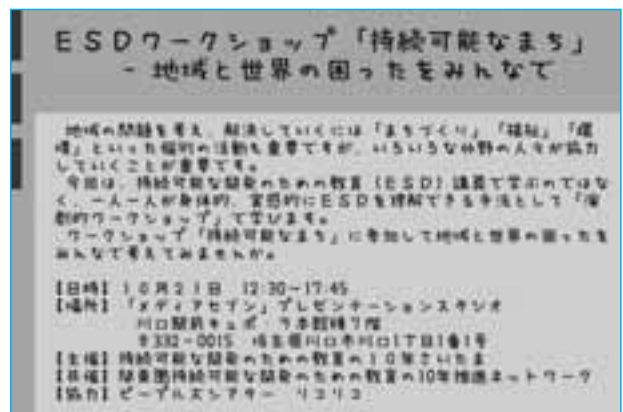
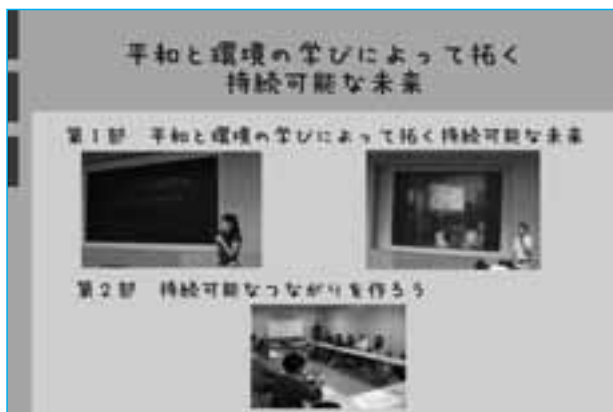
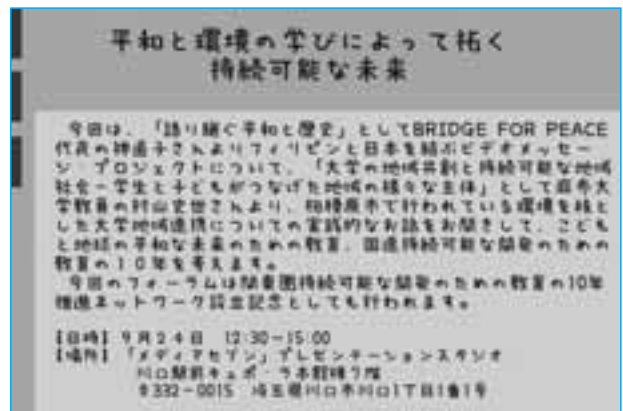
分野を超えた取り組みとして

- まちづくり・環境・福祉などとの連携  
環境まちづくりフォーラム埼玉・埼玉住まいまちづくり交流展



- ネットワーク  
埼玉グリーン文化協議会・埼玉住まい・まちづくり交流展・環境まちづくりフォーラム埼玉実行委など







さかな・ねこ。こどもから大人まで苦しむ  
ナッソによる水俣の環境破壊・エコサイド

短い少女「静恵」が描った

水俣で起こったことは、  
人と人、人と自然のすべての  
環境を破壊した。こども  
たちが犠牲になった持続不  
可能な社会の始まり。お母  
さんのおなかの中で水銀を  
吸収したこどもたち。わが  
子に成り代わりたい親を  
救って生まれたこどもた  
ち。そして、持続可能な社  
会づくりの始まり。

環境破壊・エコサイド  
ゆっくりゆっくりやってくる原爆

水俣はゆっくりゆっくりやってくる原爆なのです。  
何人もの人から聞きました  
ゆっくりゆっくりと被害に及んでいるのではないのでしょうか  
もの言えぬ被害の子どもが泣いてきます  
水俣病の子や孫をかえ、お母さん水俣病も知れない年輩の思い  
が伝わってきます  
そうしてわたしの住んでいるここは  
水俣ではないのかどうか考えてください  
(丸木健)

**ESD**  
こどもと地域の  
平和な未来をつくる教育

「経済・市場価値」から「いのち・環境」への転換  
「交渉」から「もやいなおし」へ

水俣ナッソ交渉

「カネはいらん、  
死んだ子返せ！」  
お金や市場価値だけでは取  
り返しのつかないこと。

ゆっくりゆっくりから長い長い時間をかけて  
持続可能な社会へ

患者と支援者は休養  
を金銭なくされた漁業  
者が始めた農業などの  
手助けをした経験から  
有機化学薬品の甘  
蜜、それを使った「甘  
蜜マーマレード」をガ  
イア水俣で作って販売  
している。

反農薬水俣地区生産者連合

ゆっくりゆっくりから  
「もやいなおし」

もともと「もやい（船い）」とは、船と船をつな  
ぎ合わせること。つまり「もやいなおし」と  
は船と船をつなぐロープを結びなおすことである。  
熊本県水俣市ではこれを地域の人と人との絆にみ  
たて、水俣病によって傷ついた絆を取り戻すため  
に、水俣病と向き合い、話し合うことで意識改革を  
はかろうとしており、この動きを「もやいなおし」  
と呼んでいる。  
EICネット【環境用語集：「もやいなおし」】  
持続可能な社会づくり持続可能な開発のための教育

ヒマラヤのラダックの持続可能な開発

近代化？ 伝統？

インド北部のヒマラヤのラダックはチベット文化圏  
で、30年前まで外国人の立ち入りが禁止されていて  
人々は静かに暮らしていた。しかし、地域が開かれる  
とともにラダックにも開発の波が押し寄せ、人々の生活  
は急速に変わっていった。


近代化？

伝統？



**ヒマラヤのラダックの持続可能な開発**  
住民と自然エネルギー、ローカルフード

エコロジカルで人間的な暮らしを取り戻すために  
NGOが住民たちとともに、自然エネルギーの活用や  
女性協会のコミュニティ活動、ローカルフード運動など、  
さまざまな活動をしています。



**持続不可能な地域から  
持続可能な地域へ**

ミナマタ、ヒロシマ、ナガサキ、アウ  
シュビッツ、ボスニア・ヘルツゴビナ

これらの「エコサイド・ジェノサイド」  
から持続可能な地域再生を果たした。



国連「持続可能な開発のための教育（ESD）の10年  
平和と環境の学びによって拓く持続可能な未来」

**4. まち育てとしての  
持続可能な開発のための教育**

こどもと若者が築く  
こどもと地球の平和な未来へ

**まち育て**

**まちを育てる**

まちづくりーハード整備、その  
補完としてのソフト  
まち育てーまちを住民が育てる  
学びあうつながり

**持続可能な開発・発展**

■開発■ まちづくり  
経済に特化して市場原理ですすめる開発

■持続可能な開発・発展■ まち育て  
社会・環境を考慮した人間的な発展

**頑張っておきらめた「まちづくり」  
持続不可能な開発**

夕張市 観光と農業開発による破綻

【頑張って】  
・経済効果の大きいものへ  
・大規模観光開発

【おきらめた】  
・自転車操業、借金・金頼み  
・財政再建団体の申請

**頑張らないおきらめない「まち育て」  
持続不可能な開発**

【頑張らない】  
・効率とか経済を優先しない  
・持続可能な開発

【おきらめない】  
・環境総破壊から地域再生  
・つながなおす・もやいなおし

**こどもと若者が築く未来へ**

未来を担うのは誰？  
↓  
こどもと若者と  
持続可能な社会を協働で築こう！

### こどもの参画

ドイツのフンボルト大学のゲーデキント教授は、ドイツの小学校で「こどもの参画のワークショップ」を行うと、教師から

「読み書き」を習っている段階のこどもには「参画」は難しいのでは、と聞かれるが

「こどもが読み書きができるなら、参画もできる」と答えている。

### こどもの参画をきっかけとする異世代での協働、交流

「こどもの自主的で自由な行動を尊重しこどもがはたらく・まをつくる「こどものまち」と「ハッピーワーク」




子どもと大学生の環境まち育て      エコライフDAY

### 学生が地域で持続可能な社会を協働で築く

麻布大学の学生による

- 『ふちのペボンバイエ 学生提案の市民・商店街・NPO・大学の地域連携』
- 『エコネットの輪 市の環境情報センターへの子供と学生提案』
- 『地域の祭でのエコ活動 ふちのペ銀河祭り』
- 『ごみを拾いながら環境政策 学生アグプト』
- 『エコロジー学園祭』



### 身近な場所で持続可能な社会を協働で築く



- ・いちご市民まちづくり研究所
- ・ソノヨコ（CJ支援施設）整備・運営
- ・まちづくりよろず相談室
- ・いちご市民文庫
- ・学生等コミュニティビジネス支援
- ・ミニ朝市

↓


#### 循環研による『ソノヨコ環境宣言プロジェクト』

身近な場所で持続可能な社会を協働で築く

### 地域間で持続可能な社会を協働で築く

#### 京大と山村のコラボ「野殿重仙居生涯学習プロジェクト」

#### 持続可能な地域づくりと生涯学習



### 持続可能な社会を協働で築こう！

身近な場所での「異世代協働」

「異世代協働」とは子どもから若者、お年寄りまでさまざまな世代が共にボランティアに地域づくりに取り組むこと。

「異世代協働マニュアル」より

↓

#### 子どもと地球の平和な未来を協働で築こう！

### 異世代協働

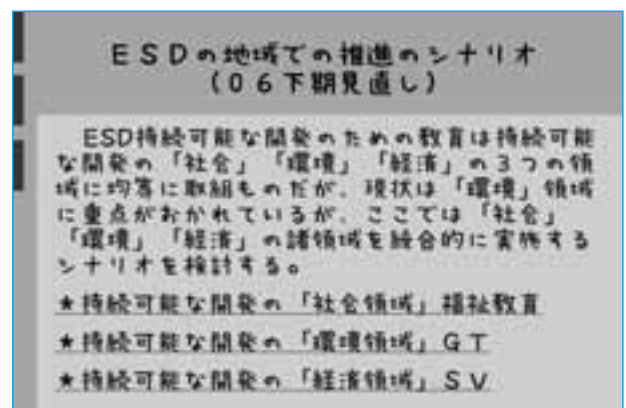
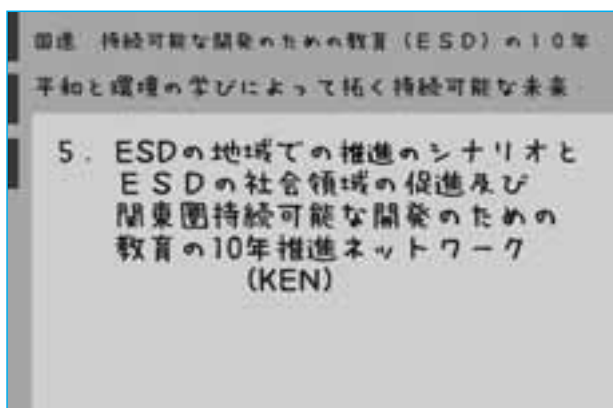
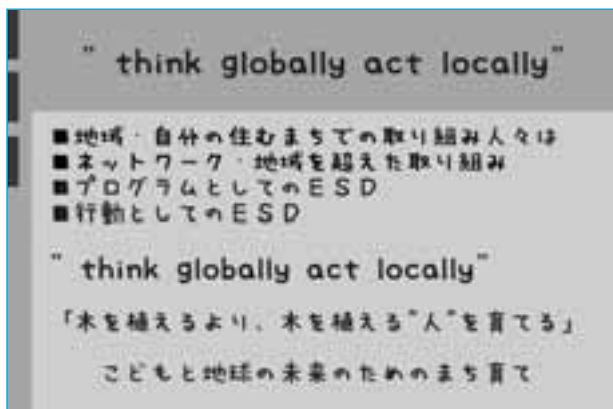
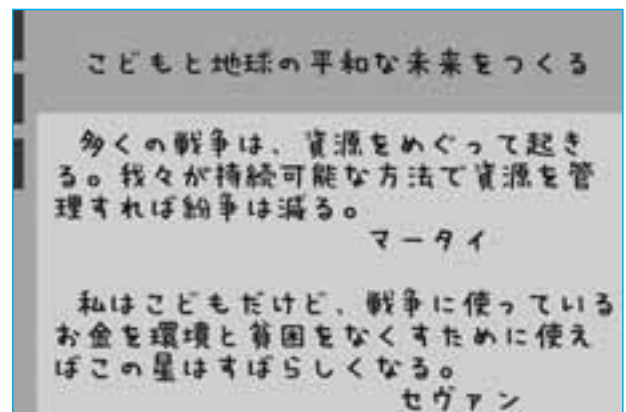
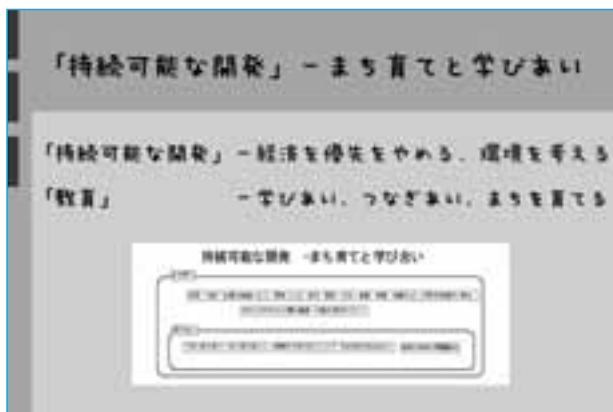


子ども若者とおとなの多様な異世代協働まち育て

### 学生が地域で持続可能な社会を協働で築く



#### 子どもと地球の平和な未来





**E S D の地域での推進のシナリオ**

★持続可能な開発の「環境領域」G.T

- 1-自治体職員・環境カウンセラーへの教育
- 2-エコウィリスムによる持続可能な開発のための教育
- 3-グリーンウィリスムによる持続可能な開発のための教育
- 4-環境領域と福祉及び図書館の連携プログラム  
図書館福祉「グリーンシーリングプログラム」井波りの指
- 5-グリーンボランティア
- 6-まちづくりとしての持続可能な開発のための教育

★持続可能な開発の「経済領域」S.V -略-

## ESDの社会領域の促進 持続可能な福祉

持続不可能な社会での福祉のあり方、地域福祉を取り巻く状況がますます困難になるこの時代に持続可能な福祉をすすめる教育の検討を行う。

あわせてESD持続可能な開発のための教育は持続可能な開発の「社会」「環境」「経済」の3つの領域に均等に配慮が必要だが、現状は「環境」領域に重点がおかれているが、ここでは「社会」「環境」「経済」の諸領域を統合的に実施するシナリオを検討する。ESDの社会領域の促進、特に「社会」領域の中で「福祉教育」を促進する。

ESDの地域での推進のシナリオ

★持続可能な開発の「社会領域」福祉教育

持続可能な福祉

- 1-「福祉教育」をテーマとする研究発表等の検討
- 2-ボランティアコーディネーター及び団体での検討
- 3-ボランティアセンター・中間支援センターでの検討
- 4-社会福祉協議会とのパートナーシップ
- 5-こども・若少年の企画
- 6-まちづくりとしての持続可能な開発のための教育

田邊 持続可能な開発のための教育（ESD）の10年  
 関東圏持続可能な開発のための教育の10年推進ネットワーク

関東圏持続可能な開発のための教育の10年推進ネットワーク（KEN）は関東地区で持続可能な開発のための教育の10年を推進するために9月1日に結成されました。

代表 陣内雄次  
 とちぎ市民まちづくり研究所  
 事務局 長岡素彦  
 持続可能な開発のための  
 教育の10年さいたま

関連：持続可能な開発のための教育（E S D）の10年  
 加盟国持続可能な開発のための教育の10年推進ネットワーク

（目的）次の目的を持つ。

- （1）「持続可能な開発のための教育」を推進する。
- （2）「持続可能な開発のための教育の10年」を推進する。
- （2）前号による諸活動を通じて、教育・持続可能な地域再生・まちづくり地域活動を推進する。

（活動）前号の目的を達成するため、次の活動を行う。

- （1）前号目的にかかわる立案、研究、調査研究、提言、運営業務
- （2）前号目的にかかわる情報会発信業務
- （3）その他前号目的にかかわる付帯業務および活動

関東圏持続可能な開発のための教育の10年推進ネットワーク  
 関東での持続可能な開発のための教育のワークショップ

持続可能な福祉

「持続可能なまち」地域と世界の因ったをみながら  
 【主催】持続可能な開発のための教育の10年さいたま  
 持続可能な地域福祉とは 青田聖之氏を迎えて  
 【主催】宇都宮大学教育学部 澤内研究室  
 持続可能な福祉をESDで進めよう！  
 【主催】麻布大学 村山研究室  
 持続可能な福祉をESDで進めよう！  
 【主催】ESDちば  
 関東圏持続可能な開発のための教育の10年推進ミーティング  
 【主催】関東圏持続可能な開発のための教育の10年  
 推進ネットワーク

関連 国連ESDバザール「持続可能なつながりを作ろう」  
 【主催】早稲大学ESD実行研究会

**参 考**

まち育てとしての持続可能な開発のための教育(ESD)  
ー子どもと地球の未来のための「学び合い」によるネットワーキングー  
長岡登虎  
「住まい・まち学習」実践報告・論文集7  
財団法人 住実総合研究財団  
(・本発表者は主に長岡のこの論文に主にもとづいている。)

ESD 子どもと地球の平和な未来をつくる教育  
<http://esd.weblogs.jp>

参 考

『持続可能な開発のための教育の10年の取り組み』  
長岡素彦  
『第3回 われごと環境フォーラム 環境活動報告』われごと環境ネット  
『第3回 われごと環境フォーラム (2005年2月26日)』  
長岡素彦

『地域と学校で資源の活用を』  
『埼玉での持続可能な開発のための教育の10年の具体的な取り組み』  
長岡素彦  
『市民がつくるなご市④コトユニサビシンエスが地域を変える』  
『新工業の品』エフ・ミユニサールンセンサーニョーエスとサー  
12月号 (2005年7月19日号)

『こどもと地球の未来のためのまち育てをすすめるために』  
持続可能な開発のための教育の10年をいかに活かすサイト  
<http://www.e-tiki.net/a/>

